

平成 30 年度第 4 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：平成 31 年 2 月 16 日（土）12：45～16：50

場所：大阪大学蛋白質研究所 6F リフレッシュルーム

東京大学工学部 3 号館 6 階大会議室 3（6B04 号室）ほか（TV 会議）

出席者：理事総数 17 名 出席理事 15 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事（副会長）	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	大上 雅史
理事	須藤 雄気	理事	諏訪 牧子
理事	中井 孝尚	理事	林 重彦
理事	原田 慶恵	理事	坂内 博子
理事	光武 亜代理	理事	宮田 真人
理事	渡邊 宙志		

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 七田 芳則

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	佐甲 靖志
欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	宮田 真人（理事と兼任）
2019・2020 年度理事候補	秋山 修志
2019・2020 年度理事候補	秋山 良
2019・2020 年度理事候補	飯野 亮太
2019・2020 年度理事候補	岡田真理子
2019・2020 年度理事候補	上久保裕生
2019・2020 年度理事候補	小松崎民樹
2019・2020 年度理事候補	北尾 彰朗
2019・2020 年度理事候補	古寺 哲幸
2019・2020 年度理事候補	寺川 剛
2019・2020 年度理事候補	村田 武士

陪席者： 会長室 神瀬 麻里子
学会事務局 向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹

議事録作成者 渡邊 宙志

報告事項：資料番号

1. 2019年度年会準備状況（宮田）：報 1
2. 2020年度年会準備状況（諏訪）：報 2
3. 出版委員会報告（野地）：報 3
4. 男女共同参画・若手支援委員会（高田）：報 4
5. 啓発活動報告（中井・原田）：報 5
6. 賞・助成金推薦委員会報告（野地）：報 6
7. IUPAB・ABA 関連報告（野地）：報 7
8. 宮崎年会参加費の改定について（光武・大上）：報 8
9. 大学等評価委員候補者推薦について（神取）：報 9
10. 地区報告

その他

審議事項：

1. 2019年度事業計画（案）（野地）：議 1
 2. 2019年度予算（案）（内橋）：議 2
 3. 出版委員会関連議題（野地）：議 3
 4. 男女共同参画若手支援関連議題（高田）
 5. 滞納3年以上の会員の除籍と会員数の推移について（光武・大上）：議 5
 6. 監事候補の選出について（原田）：議 6
 7. 2019年度総会シンポジウムについて（神取）
 8. （追加議題）生物物理学会分野別サブグループについて（高田）
- その他 2019年度定時社員総会の日程について（神取）

審議および報告事項

定足数の確認：

理事会の審議に先立ち、議長 神取 秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 15 名により過半数を超えた。

定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

報告事項：

1. 2019年度年会準備状況（宮田）：報2

宮田 真人 実行委員長より 2019 年度の年会準備状況の報告があった。

■ 開催概要案が出来上がった。

- ① エーイー企画と協力して年会までのロードマップができあがった。
- ② シンポジウム応募：共催 11 件 一般 26 件、計 37 件の応募
 - 会場数の制約から 2 月末までに 32 件に絞り込みを行う。
- ③ 一般会員事前登録参加費を 7,000 円から 10,000 円へ値上げし、会員に周知した。

2. 2020年度年会準備状況（諏訪）：報2

2020 年度年会の準備状況について諏訪 牧子氏より報告があった。

- ① 会場となる G メッセ群馬が 2020 年に完成予定。完成図案が披露された。
- ② 年会実行委員会のメンバーと役割の編成が示された。
- ③ 会場となる G メッセの視察を行い、工事の進捗状況についての報告があった。
- ④ 会場周辺宿泊施設に関して報告があり全体でおよそ 4,000 名は収容できる。
 - 高崎駅周辺 2,500 名：前橋駅周辺：1,600 名
- ⑤ 運営に関して以下のように概要を実行委員会で決定した。
 - 役割分担に関して説明があり、各分担グループで主副責任者を決めることとする。
 - 一般演題発表は全てポスターとし、ポスター会場に全てのポスターを全日程にわたり掲示することが提案された。
 - 口頭説明は責任担当時間を設け、3 日間各前後半のうちの一つに割り当てるものとする。
 - シンポジウムの募集にあたり、年会前後にサテライトミーティングの開催の可能性を今後検討する。
 - 年会参加費について混乱を避けるために維持することを基本とするが、全体予算との関係を見極めた上で判断する旨が了承された。
 - SSHの高校と協力してポスター発表への高校生の参加を促す。その準備と

してSSH全国発表会において学会のブースを設け、広報を行うことを検討している。

- 懇親会は、会場内の展示スペースのうち、ポスター会場の隣の部分を用いて実施する。

⑥ 次回の情報交換は、3月の支部会で行うことが確認された。

3. 出版委員会報告（野地） 報3

野地 博行 氏より出版委員会に関する報告があった。

■ 欧文誌「BPPB」に関して

- ① 現時点で2019年度の投稿数が4、掲載数が7
- ② 郷 信広 氏の呼びかけにより海外の研究者25名から投稿に賛同が得られた。
- ③ 科研費の執行状況
 - インド・イランからの投稿に対する補助
 - 残高（2/8 現在） 408,637 円
 - 今後の支出予定
 - i. JST BPPB 査読システム使用料
 - ii. サポートスタッフ賃金 1～3月分
 - iii. みずほ銀行web 手数料 4ヶ月分
 - 残高見込み 約 25,637 円
- ④ クラリベート社によるメール配信サービスをスタート
 - BPPB 掲載論文に引用された論文著者に対し、メール配信をスタート
 - 配信数：99.2%
 - 開封率：36.3%
 - クリック率：11.85%
- ⑤ 理事が推薦した候補に対して出版委員会が投票を行い、中村 春木 氏が BPPB の次期編集委員長に決定した。
 - 今年度は現委員長の石渡 信一 氏と引き継ぎを行い、来年度より。

■ 邦文誌に関して

- ① 58-5, 59-1 号を刊行した。
- ② 次年度の編集委員長・編集委員が決定し 2019 年度の新編集委員会が立ち上がった。
 - 東北大学の高橋 聡 氏が次期編集委員長に決定した。
- ③ Web site の更新に伴い URL の付け替えを行なった。
- ④ サイボウズ上の編集委員会データ保存について。
- ⑤ 営利雑誌への転載以来があった。

- ⑥ 学会員から本人の「生物物理」執筆記事の図版を、営利雑誌へ転載したい旨の申請があった。
- 会長・出版委員長と相談し、（非営利雑誌同様に）無料での転載を認めた
 - 今後同様の場合、営利目的誌の場合どのように取り扱うか検討が必要
- ⑦ 「生物物理」で出版させてもらった記事を英語で読みたいという希望が海外からあった。
- BPPB は活性化されることが期待される。
 - ◇ BPPB だけでなく、他の雑誌への投稿の問題も含まれている。
 - 翻訳記事の場合、論文は新しい出版としてみなされない。新しい論文とみなされるには新しい内容が 30%含まれていなければならない。
 - 「生物物理」の規定では、「生物物理」の編集委員の承認を得ればそのまま他の非営利雑誌に掲載することを認めている。
 - それを英文として訳して他雑誌に掲載する場合は、自然と機械的な翻訳とは 30%以上変わるので「生物物理」側では問題ない。
 - ◇ 著作権法では 30%の違い、アカデミックな倫理的には新規性が必要。
 - ◇ 和文と英文で数字を議論するのは難しいかもしれない。
 - 英訳記事雑誌を受け取る側の雑誌の選択であり、こちらで議論する必要がない。
 - Medline は単なる翻訳記事は 2 重投稿とみなさない。ただし、新規の記事としてみなさい。

■ ホームページ編集委員会に関して

- ① 編集委員会規約の改定についてホームページ委員会の宮田真人氏より提案があった。
- 改定の骨子：委員選出に関してコンピュータに明るいことが推奨要件としてあったが、時代背景に合わないために、Web 発信力が高い人物の方が望まれる。
- ② 当初ホームページ編集委員会は「生物物理」委員会と合併を前提に編成された。
- 今後、時間をかけて編成を考えていく
- ③ ホームページの更新案が提示された。
- 「生物物理とは」という項目を学会長が執筆する。
 - 出張講義の実績一覧を掲載する。

4. 男女共同参画・若手支援委員会（高田）：報 4

■ 高田 彰二 氏より男女共同参画・若手支援委員会の報告があった。

- ① 2018 年度年会における男女共同参画・若手支援シンポジウムにおける報告

- 今回は世代間ギャップをテーマにして各世代間の意見交換を行った。
- 80名近くの参加者があり、多くのアンケート結果が得られた。
 - 非常に好評であった。
 - 若手のキャリア支援について政府への提言をしてほしいという意見が非常に多い。
- アンケート結果を広く共有すればよいという意見が出た。
 - 邦文誌の談話室において報告することを検討している。
 - 今回のシンポジウムでは、生データの公表を前提としていない。
 - ◆ 次回からは了解を得た上で、アンケート結果を公表することも検討する。
- 若手支援の観点からの意見からあったが、男女共同参画のように意見を挙げる機関がない。
 - 大きな団体として政府と交渉する必要がある。
 - 男女共同参画は分野をまたいで問題意識を共有しやすいが、若手問題は生物分野が特に抱えている問題なので、同分野でまとまる必要がある。
 - ◆ 生物科学連合はまだ小さい。

② 2019年度年会におけるキャリア支援説明会

- 昨年に引き続き株式会社アカリクに企画を引き受けてもらうことが決定した。
- 今年度もキャリア支援説明会のランチョンセミナーの費用を理事会より支出することが承認された。

③ 男女共同参画・若手支援シンポジウム

- 昨年度と同様、年会3日目に実施する予定。
 - 分野別専門委員会とのバッティングを避けて理事が多く出席できる。
- 現在、2019年度のテーマを策定中。

5. 啓発活動報告（中井・原田）：報5

中井 孝尚 氏より啓発活動についての報告があった。

- ① 2018年度の講師派遣事業の6件の実績報告があった。
- ② 講師派遣事業の実績をホームページに掲載することを検討中。
 - 対象校に許可を得て掲載を進める。

6. 賞・助成金推薦委員会報告（野地）：報 6

野地 博行 氏より賞・助成金推薦委員会に関する報告があった。

- ① 東レ科学技術研究助成に推薦した 井上 圭一氏（東大）が採択された。
- ② 山田科学振興財団研究援助の推薦に関して、佐藤 慎哉 氏（京大）・澤井 哲 氏（東大）・塚崎 智也 氏（奈良先端大）の3名を推薦することが承認された。
- ③ 2018 年度内藤記念講演助成金（春季）について石森 浩一郎 氏（北大）を推薦することが承認された。

7. IUPAB・ABA 関連報告（野地）：報 7

野地 博行 氏より出版委員会に関する報告があった。

■ IUPAB focused meeting とし新しい企画が始まり募集があった（添付資料1）

- ① 2021 年以降に開催予定の100~300名規模の会議が対象（通常の年会等は対象外）。
- ② 日程はIUPAB のイベントとバッティングしないこと。
 - IUPAB 大会開催の1 年以内でないこと
- ③ 3~4 日の日程とすることが条件若手研究者の参加
- ④ トピックが分野横断的で、研究面での新興国や途上国からの参加があることが望ましい（→二国間交流での採用は難しい）。
- ⑤ IUPAB に詳細な予算案を提示。研究面での新興国、途上国出身の学生に対して最大7,000€、その他の一般支出に最大6,000€の支援あり。
- ⑥ 2021 年に実施予定の会議の申請〆切は2019年4月30日。
- ⑦ 情報はそのままの形で会員に周知することを計画している。

IBC2023（京都年会）と連携した企画を検討中

- IBC2023では教育的なプログラムを計画しているが、その数年前から準備をすべき。そのサポートで今回IUPABの予算に応募する選択肢がある。
 - アジア圏から参加者を募り、年会と連動した教育的プログラムを **focused meeting** で実施し、そのまま年会に参加してもらう。
 - 2021年度の年会実行委員（仙台）との連動を考慮する必要がある。

■ ABA報告

- ① 2018/12/03-06に Australian Society for BiophysicsがホストとなりMelbourne メルボルンのRMIT Universityで開催された。
- ② 参加人数：239 名（うち日本44 名）
- ③ 参加国：豪・日・中・香・台・印・韓・シン・タイ・英・スウェーデン・独
- ④ 招待講演および口頭発表：

- Invited speaker (30min) 58 人 (うち日本人4名)
 - Selected speaker (15min) 37 人 (うち日本人8名)
- ⑤ Biophysical Reviews ABA 特集号進行中
- 日本から参加するeditor (永山、野地)
- ⑥ ABA 理事会報告
- 議題: 自己紹介、前回議事録確認、事務局からの報告、ABA-ASB symposium 報告 (参加人数の見込み等)、ABA Website の再開の見込みについて。
 - 次期体制: Chair: Danny Hatters,
Secretary General: Renae Ryan,
Vice chair: 次期開催国の責任者 (台湾)、
Treasurer: Chary K.V. R.
- ⑦ 次回開催地: 全参加メンバーが開催し一巡した。
- 2021 年は台湾が第一候補。
 - 非公式ではあるが、2024年は日本が開催地になることを示唆された。
 - 2023年IBC の準備を考えると難しいという旨を伝えた。
 - 今後シンガポールが参加する可能性があり、この場合は順番が2007年にするので問題ない。

■ 第3回 IBC2023 準備ワーキング報告

日時: 2019 年1 月25 日 (金) に東京大学にてIBC2023準備ワーキンググループのミーティングについての報告があった。

出席者: 野地 博行 氏、西坂 崇之 氏、林 久美子 氏、永山 國昭 氏、中村 春木 氏、原田 慶恵 氏、下飼手 氏

- ① ABA報告
- ② 「国際関係委員会 International affairs Committee (IAC)」の新設案があがった。
 - 国際コンGRESS等などの詳細なワーキンググループの上に、長期的な視野をもつ委員会。国際関係の全体的なコンセプトを決定する。
 - 二国間シンポジウムの管理について (現在の会長直下or IAC 管理) および2019 年年会での日程。
 - 構成メンバー
 - 現会長、会長経験者、IUPAB担当経験者、会長指名による実務者数名
 - 原案: 神取氏、中村氏、原田氏、永山氏、西坂氏、野地氏、由良氏
 - 年に数回の指針策定のミーティング
 - 任期: 3年
 - 次期の社員総会 (6月) に承認を経て発足する予定。
 - IBC2023の準備委員会をIACの下におく。

- IBC2023実行委員会は独立組織ではあるが、構成メンバーがほとんどBSJと重なるため、長期的視野の共有が必要。
- IBC2023実行委員会発足後は独立して運営（年会と同様）。

③ IBC2023 実行委員会の編成

- Executive committee（EC）を形成し、その下にLocal organizing committee & Scientific committee を設置。
- ECのメンバー：ワーキンググループのメンバーに加えて由良 敬 氏と年会経理担当経験者＋教育担当プログラム担当。

④ 会計について

- 2019 年度は一般会計枠内
- 2020 年度以降特別会計を提案
 - 年度をまたいだ会計の必要性
年度をまたいだ予算として使用するのには構わないが、年度ごとの報告は必要。
 - IBC2020（ブラジルのイグアス）で、IBC2023年の大会のアナウンスをする必要がある。
 1. 今までは、IUPAB 委員会出席理事には旅費のサポートが無かったが、旅費のサポートをつける。
 2. IUPAB 関係者の招聘。

⑤ 教育プログラム

- IBC2023が採択された理由の一つに国際的教育貢献の提案
- すでにインターンシッププログラムを持っている組織に協力を依頼。
 - 金沢大学：AFMのサマースクールなど。
- 金沢大AFM、理研旧QBiC、OIST などに協力依頼を検討。
- 2020, 2021 に試験運用したい（IUPAB focused meeting 制度利用を検討）。
- IUPABの予算が通らない場合は、特別会計の枠内で実施。

⑥ 今後の予定

- 2018 年度にもう一度会議を実施（3月）。
- 締め切りが focused meeting 応募締め切りが 2019/4/30 と時間がないので難しい。
- IBC2013 を念頭に入れると教育プログラムの実施は 2012 年の方が望ましいが、その場合は IUPAB のサポートがないので予算の持ち出しが必要となる。

8. 宮崎年会参加費の改定について（光武・大上）：報 8

大上氏より年会費の改定について報告があった。

- 基本的には年会実行委員が決定し、理事会が承認するというプロセスだが、今回は前年度との差額が大きかったために、会員全体への周知を行った。

9. 大学等評価委員候補者推薦について（神取）：報 9

神取氏より大学等評価委員候補者推薦について報告があった。

- 2018年11月30日に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦依頼があった。
 - 推薦期間が短かったため、理事会での事前の承認は見送り、監事にご意見をうかがったうえで会長から候補者に打診し、ご承諾くださった下記の四氏を推薦したとの報告があった。
 - 片岡 幹雄 氏
 - 嶋田 一夫 氏
 - 中村 春木 氏
 - 原田 慶恵 氏

10. 支部活動について（須藤）

- 中国四国支部の支部活動について中国四国支部長の須藤氏より報告があった。
 - 八木 氏が実行委員長となって広島県立大学にて支部会を 5/11,12 に開催。
- 関東支部の支部活動について野地 氏より報告があった。
 - 諏訪 氏が実行委員長となって支部会を 3/4,5 に開催する予定。
- 関東支部の支部活動について小松崎 氏より報告があった。
 - 生化学の北海道支部会と合同でシンポジウム 3/14 に開催する予定。

11. 中井氏の海外赴任について（中井）

理事を務めているカネカの中井氏から、3月よりベルギーへ赴任にするとの挨拶があった。

審議事項：

1. 2019年度事業計画（案）（野地）：議 1

野地 博行 氏より 2019年度事業計画の変更点が示された。

- 主な変更点
 - ① 20th IBC（2020）のブラジルでの開催地がイグアスに変わったため、変更を行

った。

- ② 出張講義などの事業名を啓蒙活動から啓発活動に修正。
- ③ 宮崎年会での出張講義予定が追加された。
- ④ ホームページのリニューアルに関する計画案の変更があった。

2. 2019年度予算（案）（内橋）：議2

内橋 貴之 氏より出版委員会に関する報告があった。

- 12月の理事会で提出した予算案からの変更・修正点。
 - ① 事業収益/学術研究事業 年会収入が参加費の改定により現在の金額より150万円程度増加する見込み。
 - 最終的に経常収益予想に56,038,500円に150万円が加算される。
 - ② ホームページ管理費に関してアウトリーチ活動関連ページをリニューアルするための予算に変更の可能性がある。
 - 前回の資料はプラグインの管理費用60万円のみ。
 - 今回は95万円となっているが、さらに増える可能性も。
 - ③ 総収支+350万円となり繰越金9660万円程度になる見込み。
 - IBC2023準備ワーキングや国際関係委員会などの活動を今後、予算計上するのであれば、グローバル化推進費やその他の事業費の枠となる。
 - 黒字予算になるだけでなく、学会会員のためになることには積極的に使用してもよいという意見が出た。
 - ホームページのリニューアルなど。
 - 消費税増税の影響は来年度から現れる見込み。
 - ④ 年会プログラム作成費用の項目に誤り（次回修正して確認）。

3. 出版委員会関連議題（野地）：議3

野地 博行 氏よりホームページ委員会の規約の修正についての提案があった。

- ホームページ委員会の規約
 - ① ホームページ立ち上げに関する規約の廃止
 - ② 委員の選出の選定基準の変更
 - 変更前「コンピュータ機器および技術に詳しい」
 - 変更後「国内外への広報活動」
 - ③ 用語「ホームページ」を「ウェブサイト」に置き換え
- ホームページ編集委員の委員と委員長の選出について、ルール改正に伴い次期委員についてホームページ委員会より候補者を選出した上で改めて審議することが決定した。

- ホームページ委員会と出版委員会と合併することの是非を引き続き審議していくことが決定した。
- ホームページのさらなるリニューアルがホームページ委員会より提案された。
主なりリニューアルの骨子
 - ① 生物物理についての説明：学会長に説明文を寄稿
 - ② 啓発活動に活動
 - 追加の予算 35 万円が計上され審議が行われ承認された。
- 学研より試験問題作成を受託している会社よりホームページの研究の紹介ページに使用されている写真を試験問題（非営利）に使用するための使用許諾申請があった。
 - 本来は出版委員会で議論した後、理事会に原案を提出するが、今回は時間が無かったために、理事会にて直接審議する
 - 規約に基本的にはホームページの図は学会に所属する。
 - ◇ 原案にもとづき「使用を許可する」旨が承認された

4. 男女共同参画若手支援関連議題（高田）

高田 彰二 氏より宮崎年会のキャリア支援説明会でのランチョンセミナーの食費を拠出する原案が提出された。

審議により原案が承認された。

5. 滞納3年以上の会員の除籍と会員数の推移について（光武・大上）：議5

三年以上の年会費滞納者は除籍対象である。これら対象者の処遇と会費の支払い督促について審議が行われた。

- 現在名 177 名が会費を3年滞納している
- 近年学会員が減少者（現在 3100 人弱）
- 学生会員が主に減少の原因

6. 監事候補の選出について（原田）：議6

原田 慶恵 氏により 2019、2020 年の監事候補として以下の2名が提案され、承認された。

- 笹井 理生 氏
- 豊島 陽子 氏

7. 2019 年度総会シンポジウムについて（神取）

年会における総会シンポジウムは会長の担当である。2019 年度は次期会長である原田

慶恵氏が担当することを確認した。

- 6-7月中には内容を決定する必要がある。

8. 生物物理学会 分野別サブグループ（高田）

高田 彰二氏より 分野別サブグループの設立と運営に関しての以下の提案がなされた。

■ 生物物理学会は多岐にわたるテーマを扱うが、個別の問題について詳しい議論を進めるために、分野ごとのサブグループを設立。

- アメリカ生物物理学会にあるsubgroupを参考
- （年会の前後に）ワークショップを開催

- 【原案1】提案型

- サブグループは、正会員30人以上による申請に基づき、理事会の議を経て新設することができる。
- サブグループは、毎年度、グループの属する正会員リストを付して継続手続きを行う。
- 学会は、各サブグループに、ワークショップ開催費用等を5万円/年度以内で支出する。各正会員は最多2サブグループに参加可能とする。

- 【原案2】トップダウン型

- 理事会が10程度の分野を設定し、サブグループをつくる（10程度というのは、若手賞 応募・審査区分と同じで、タンパク質構造、タンパク質物性、核酸、筋肉分子モーター、膜、細胞生物課題、脳、光生物学、イメージング、生物情報）。
- 学会は、各サブグループに、ワークショップ開催費用等を5万円/年度以内で支出する。

- 他の理事からのコメント

- 何を狙いにするかによって設計が変わる。
 - ◇ 会員数を増やす。
 - ◇ 会員であることのメリットを明確化する。
- 学会員であることを要件にした場合、ボトムアップで立ち上がってきた現行の小さな研究会が廃れてしまう可能性がある。
- まだ設計の具体的な描像が見えづらい。
- 会員数を増やすのであれば、異分野の人も巻き込むような研究会の形があってもよいのではないか？

- 今後の理事会でも議論していくことを決定した。

その他：2019年度定時社員総会の日程について（神取）

神取 秀樹 氏より2019年度定時社員総会の日程として6月の22日(土)が提示された。

日程

- 11:00~12:00 出版委員会、男女共同参画・若手支援委員会
- 13:00~14:00 定時社員総会
- 14:00~17:00 理事会

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（神取）

平成30年度第5回理事会

日時：2019年4月20日

場所：(TV会議)

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は16:50に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成31年2月16日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成30年度第4回理事会

代表理事 神 取 秀 樹

監事 七 田 芳 則